

輸出事業計画

※申請者名：オーケーズデリカ株式会社、

品目：冷凍弁当（ごはん）・総菜

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・テストマーケティング、オンライン商談などで、米国ではOEM対応の総菜のニーズ、香港では小売向け総菜や介護向け冷凍弁当などのニーズが高いことが分かった。
- ・新工場建設地の東員町の新特産品となることを目指し、東員町産の米や野菜等農産品を使った総菜（冷凍弁当含む）の開発を推進。
- ・これまで積極的に取り組んでいない地域特産品の製造や海外向け商品事業にも対応した新工場を建設予定。
- ・2022年度から香港向けに本格的輸出を開始し、FSMAへの対応ができた時点で米国向け輸出を開始する計画。

【課題】

- ・地域の農産品を積極的に使った地域特産品の開発を進めているが、生産者とのコネクションも少なく、また安定供給に不安。
- ・海外向けに長期保存が可能な商品を量産できない。食品製造設備、及び冷凍冷蔵保存設備が不足。
- ・国内のHACCP基準には対応できても、例えば米国輸出を想定した場合、FDAへの施設登録、査察等の対応も考えると現状の工場では対応できていない。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、輸出に関しては外食需要などが低迷。

2. 輸出事業計画の取組内容

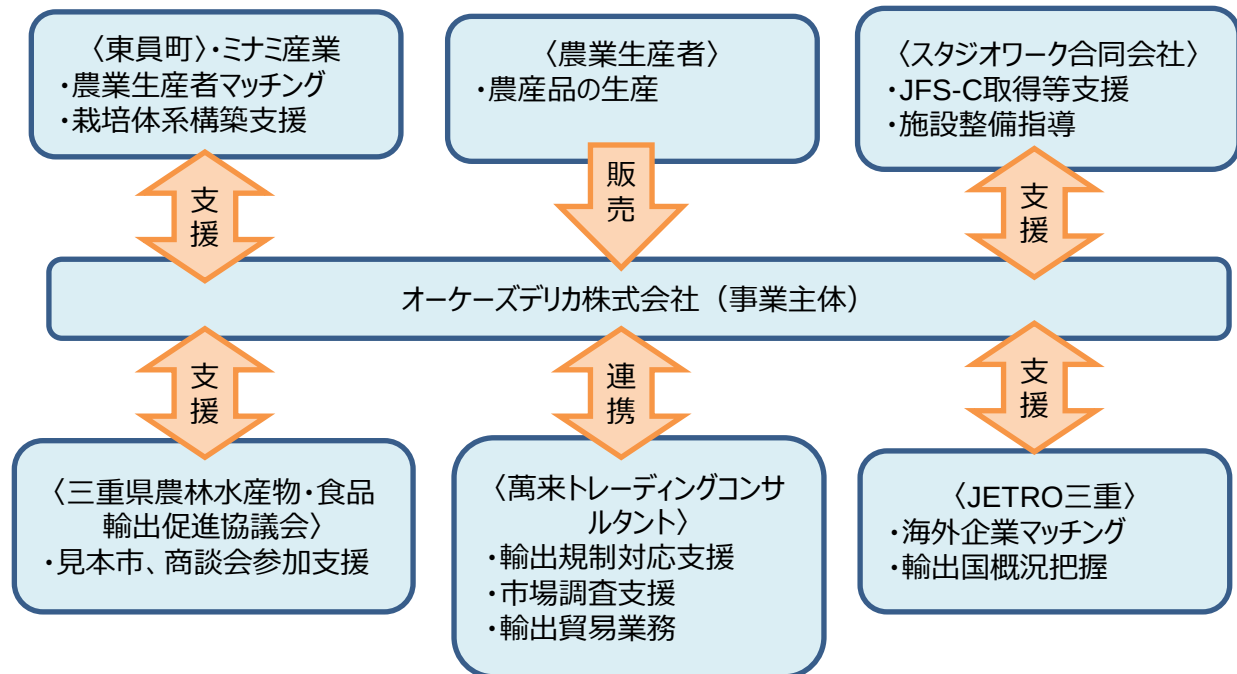
- ・生産者が参加するマメマチプロジェクトに参加し、生産者との関係を構築。
- ・東員町役場の支援を得て、生産者の情報提供やマッチングを進める。
- ・専門家のアドバイスを受けながらJFS-Cの認証取得を想定した新工場を建設。
- ・長期保存可能な製品製造に向けて機械設備を導入。
- ・地域商社などのアドバイスを受けて現地ニーズに合った商品開発を推進。
- ・商社、現地バイヤーとのパイプをしっかりと維持強化してマーケットの状況把握に努め、現地ニーズに対応できる体制を構築。
- ・輸出の需要が伸びている小売惣菜商品など家庭用需要を取り込む。
- ・自社の強みである介護用惣菜や冷凍弁当についても現地の味付けなど商社、現地バイヤーの意見も聞きながら対応して販売拡大を目指す。

輸出事業計画

※申請者名：オーケーズデリカ株式会社、

品目：冷凍弁当（ごはん）・総菜

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



【PLAN(計画)】

現地バイヤーや輸出業者等からの情報を元に計画。機器整備については投資を伴うため、メーカーとの調整を踏まえた上で金融機関に相談。

【DO(実行)】

計画を元に輸出を実行する。気象被害等の原料生産状況の変化、新型コロナの感染状況による変化、コンテナ不足による物流停滞、コスト上昇等の物流状況の変化などに対応。機器整備については、メーカーや保守業者と連携しながら安定稼働を推進。

【CHECK(評価)】

おおむね四半期毎に会議を実施し、国内事業も含めた全体事業の中での輸出事業の必要性・採算性について評価を行い、金融機関の意見も容れながら今後の方向性を決定。

また、個々の輸出案件について、仕入、加工、輸出の各段階を分析評価し、関係機関の意見も聞きながら改善点を洗い出し。

【ACTION(改善)】

CHECKで整理した改善点を踏まえ、事業内容を見直す。必要に応じ関係機関から意見を聴取。

4. 輸出目標額

	現状 (令和3年3月期)	目標年 (令和10年3月期)
輸出額(万円)	0	5,100
輸出量 (t)	0	54.4
輸出先国	0	米国、香港